

# 新たな土地利用型作物「ハトムギ」の産地化への取り組み(斐川町地域農業再生協議会)

## 取組の背景

- 主食用米の需要が減少していく中、水稻から需要のある高収益作物への転換を図る必要がある。
- 麦・大豆の作付ができない湿田地域での転作作物を普及する必要がある。
- 美肌・健康ブームや食の安全・安心志向の高まりによる、国内産ハトムギの需要が拡大してきた。
- 既存の機械化体系での栽培が可能でもあり、地域の振興作物としてビジョンに位置付けた。



## 取組概要

- 平成18年に3経営体・栽培面積2.5haで試験栽培をスタート
- 平成19年に5経営体・栽培面積24ha、平成20年に12経営体・41haで試験栽培を拡大。
- 平成21年に24経営体・103haで本格栽培に移行。雑穀・製茶メーカー等との取引拡大。
- 平成26年より、産地交付金で25～27千円/10aの支援を実施。

	26年度	27年度	28年度
交付単価 (千円/10a)	25	25	27



## 成果・将来の展望

- 作付面積は60～100haを確保してきた。今後、栽培面積120ha及び生産量の200トンへ拡大。
- 契約販売の拡大と産地交付金により安定した収入を実現し、農家所得の向上を目指す。
- 新規取引の要望もあり、JA地区本部の広域連携による産地形成に向けた取り組み。
- 既存加工品のブラッシュアップと付加価値をつけた新たな加工品などの開発。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
面積	2.3ha	24ha	41ha	103ha	99ha	86ha	80ha	64ha	83ha	81ha	77ha

